

ハゲタカジャーナルのリスクと 大学の対応策

首都大学東京 学術情報基盤センター

栗山正光

2019年7月28日(日)

Wiley Research Seminar Japan 2019 @東京コンベンションホール

ハゲタカ出版社、ハゲタカジャーナル predatory publishers, predatory journals

- 学術出版を装って論文掲載料(APC)で儲けようという悪徳出版社、悪徳雑誌
 - 電子メールなどで投稿勧誘
 - 既存雑誌とまぎらわしいタイトル
 - 所在地、編集者などを偽る
 - 投稿するとすぐに受理通知と料金請求
 - 取り下げを要求しても応じない
- ジェフリー・ビール(Jeffrey Beall)というコロラド大学デンバー校の図書館員が指摘、命名
 - predatory: 捕食性、略奪的

ハゲタカジャーナルのリスク

- 研究者は、評価を落とす
 - うっかりハゲタカジャーナルに投稿してしまった論文は、もう別のジャーナルに発表できない
- 大学・助成機関は、組織の評判を落とす
 - 研究費、補助金が不適切に使用される
- 一般市民は、不確実な情報に惑わされる
 - 特に医学関係
- 社会全体として科学への信頼が損なわれる

ハゲタカジャーナル出現の背景

- 研究者へのプレッシャー
 - Publish or perish
- 学術雑誌の電子ジャーナル化
- オープンアクセス運動
 - 学術論文をインターネット上で無料公開し、誰もが自由に利用できるようにしようという運動
 - 背景に学術雑誌の価格高騰
 - 研究助成機関が補助金提供の条件としてOAを義務化する動き
 - 特にヨーロッパで活発 cf. [Plan S](#)
 - 日本の科研費は[推奨](#)

オープンアクセス

open access (OA)

- セルフアーカイビング (グリーンOA)
 - 予約購読型学術雑誌に掲載された論文(の原稿)を、著者がウェブサイトやリポジトリで無料公開すること
- オープンアクセス誌 (ゴールドOA)
 - 読者から購読料を取らない無料公開誌
 - 多くの場合、論文掲載料(APC)を著者に課す
 - 研究助成機関等がAPCを補助する場合が多い
 - APCを払えば、その論文のみOAとするオプションがある予約購読型雑誌も (ハイブリッドOA)

ハゲタカジャーナルとオープンアクセス

- ハゲタカ出版社はゴールドOA出版社
(の一部)
- ゴールドOAは自費出版の性格が強い
 - 金さえ出せば何でも出版します、という業者の参入を防ぐのは難しい
 - 研究者側にもハゲタカジャーナルの需要があるという点は否定できない
 - ハゲタカとされている雑誌に多くの一流大学の研究者が論文を発表

ハゲタカジャーナルの識別

- どれがハゲタカなのか識別はなかなか難しい
 - 法外なAPCを請求してくるわけでもない
 - 査読の不備は既存の雑誌でも存在
- ビールのリスト (Beall's list)
 - ジェフリー・ビールが2011年頃から個人的に作成・公開してきたブラックリスト
 - 2013年以降、掲載数が急速に膨れ上がる
 - 少しでも疑わしいものは掲載という攻撃的姿勢
 - 2017年1月、突如としてインターネット上から消滅
 - コロラド大学は本人が自主的に削除したと発表

ブラックリストとホワイトリスト

- ブラックリスト
 - [Stop Predatory Journals](#)
 - ビールのリストを有志が匿名で復活
 - [Cabells](#)という会社のブラックリスト
 - 有料
 - ホワイトリストも作成
- ホワイトリスト
 - [Directory of Open Access Journals \(DOAJ\)](#)
 - [Cabells](#)のホワイトリスト
 - Scopus, Web of Science など定評ある文献データベースも一種のホワイトリストと言える
- どれも完全ではない

ブラックリストとホワイトリストの オーバーラップ

	ビールのリスト	キャベルズの ブラックリスト	DOAJ	キャベルズの ホワイトリスト
ビールのリスト	1,404	234	41	1
	1,205	296	29	0
キャベルズの ブラックリスト	234	10,671	37	0
	296	473	22	1
DOAJ	41	37	12,357	980
	29	22	5,638	407
キャベルズの ホワイトリスト	1	0	980	11,057
	0	1	407	2,446

* 2018年12月現在 上段: 雑誌数、下段: 出版社数

出典: Strinzel M, Severin A, Milzow K, Egger M. 2019. Blacklists and whitelists to tackle predatory publishing: a cross-sectional comparison and thematic analysis. mBio 10:e00411-19. <https://doi.org/10.1128/mBio.00411-19>.

ハゲタカジャーナルへの対応策

- 研究者への注意喚起
 - ブラックリストとホワイトリストの批判的活用
 - [Think Check Submit \(日本語版\)](#)
 - 投稿前のチェックリスト
- オープンアクセス学術出版社協会(OASPA)の取組
 - [Principles of Transparency and Best Practice in Scholarly Publishing](#)
- 業績評価の見直し
 - 掲載されても評価されない、はずだが、有名大学の研究者が数多く投稿している事例も(確信犯?)
 - [India strikes back against predatory journals](#)

まとめ

- 学術出版を装って論文掲載料を稼ぐハゲタカジャーナルは、研究者や大学の評判を落とし、科学への信頼を失墜させる
- ハゲタカジャーナル出現の背景に、研究者へのプレッシャー、学術誌の電子ジャーナル化、オープンアクセス化などがある
- ハゲタカジャーナルの識別はなかなか難しく、ブラックリストもホワイトリストも完全ではない
- 研究者へ注意を喚起するとともに、業績評価のあり方も見直す必要がある